

令和元年9月19日

日本畜産学会第126回大会 若手奨励・男女共同参画推進委員会
ランチョンセミナー開催報告

日時：2019年9月19日(木) 11:45～12:45
場所：岩手大学農学部 第Ⅱ会場(7番講義室)

テーマ：「ジビエ食品の安全性を確保するために」

演題1：「ジビエ利活用の現状」

石田光晴 先生（宮城大学食産業学群フードマネジメント学類・特任教授）

演題2：「ジビエの捕獲と利活用に資する衛生検査システムの開発」

山崎朗子 先生（岩手大学農学部共同獣医学科・助教）

参加者数：80名

内容：

近年、イノシシやシカをはじめとする野生動物被害により、農業での経済損失が顕在化しています。害獣による経済損失と捕獲のための経費の緩和と新たな財源の獲得を目的とし、捕獲された野生動物の肉をジビエとして産業化する動きが推進されています。一方、家畜産物に比較し、ジビエ食品の衛生管理体制は十分に整っておらず、捕獲から生産過程における技術者の負担や、消費者イメージによる消費拡大の伸び悩みが課題となっています。そこで今回は、ジビエ利活用の現状について概説頂くとともに、イノシシやニホンジカ等の捕獲や、解体現場で簡易に検査できる検査システムの開発について、ご紹介を頂きました。

最初に、石田光晴先生より、ジビエ食肉処理施設の自主的な衛生管理等を推進し、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図ることを目的に、2018年5月に定められた「国産ジビエ認証制度」と、ジビエの衛生的課題について、ご説明を頂きました。次に、山崎朗子先生より、国内の食品衛生、人畜共通感染症において社会的影響の高い病原体、それらの検査システムの構築と運用の仕方などについて、ご説明を頂きました。

また山崎先生からは、女性獣医師のワークライフバランスについてもお話を頂きました。地方公務員や大学教員の場合、職務内容はハードではあるものの、勤務時間や休暇を比較的フレキシブルに取得しやすく、産育休もとれる状況にはあり、深刻な状況ではないという感想でした。

一般講演終了後にも関わらず約80名の参加者があり、盛岡市民のソウルフード「福田のコッペパン」をほおばりながら、学生からの質問も含め活発な質疑応答が行われました。盛況に終わられましたことを参加された会員の皆様に感謝申し上げます。

世話人：木村直子(山形大)、浅野早苗(日大)



ご講演される石田光晴先生



ご講演される山崎朗子先生



盛岡市民のソウルフード「福田のコッペパン」